

平成 18 年度食品安全モニター会議について（報告）

1 開催趣旨

平成 18 年度食品安全モニター会議については、モニターの方々に、食品安全委員会の取組や食品健康影響評価の実際などについて、知識や理解を深めていただくとともに意見交換を行うことを目的に開催した。

2 開催状況

平成 18 年 5 月から 6 月にかけて、全国 7 都市において計 10 回開催し、合計 371 名の食品安全モニターが参加した。

3 会議概要

会議は、大きく二部構成で行い、第一部では、最初に食品安全委員会委員よりリスク分析の枠組みと食品安全委員会の取組について、続いて事務局より食品安全モニターの活動について説明を行った。また第二部では、個別分野を取り上げ、専門調査会専門委員より、リスク評価の考え方と実際について説明を行った。これらをもとに、食品安全委員会委員等とモニターとの間で意見交換を行った。モニターからの主な意見等は、別紙 1 のとおり。

また、会議には、厚生労働省、農林水産省の担当者も出席し、リスク管理施策等幅広い観点からの意見交換に参加したところである。

なお、今後の会議等の運営に当たっての参考とするために会議終了後にアンケート調査を行った。その結果は、別紙 2 のとおり。

開催日 開催場所	モニター出席者		リスク評価の個別テーマ（出席専門委員）	出席委員
	対象地域	人数		
5 月 26 日（金） 東京都（東京 1）	東京都、山梨県、長野県	35 人	動物用医薬品 （三森国敏専門委員）	寺尾允男委員、 小泉直子委員、他
5 月 30 日（火） 東京都（東京 2）	千葉県、神奈川県、新潟県	43 人	ウイルス （西尾治専門委員）	寺田雅昭委員長、 見上彪委員、他
5 月 31 日（水） 東京都（東京 3）	茨城県、栃木県、群馬県、 埼玉県	39 人	添加物 （福島昭治専門委員）	寺田雅昭委員長、 寺尾允男委員、他
6 月 13 日（火） 札幌市	北海道	17 人	農薬 （鈴木勝士専門委員）	見上彪委員
6 月 14 日（水） 仙台市	青森県、岩手県、宮城県、 秋田県、山形県、福島県	39 人	遺伝子組換え食品等 （日野明寛専門委員）	本間清一委員
6 月 20 日（火） 名古屋市	岐阜県、静岡県、愛知県、 三重県	39 人	汚染物質 （千葉百子専門委員）	寺尾允男委員
6 月 21 日（水） 大阪市（大阪 1）	大阪府、兵庫県	36 人	農薬 （鈴木勝士専門委員）	小泉直子委員
6 月 21 日（水） 大阪市（大阪 2）	富山県、石川県、福井県、 滋賀県、京都府、奈良県、 和歌山県、	27 人	かび毒・自然毒等 （芳澤宅實専門委員）	小泉直子委員
6 月 27 日（火） 岡山市	鳥取県、島根県、岡山県、 広島県、山口県、徳島県、 香川県、愛媛県、高知県	47 人	ウイルス （西尾治専門委員）	見上彪委員
6 月 28 日（水） 福岡市	福岡県、佐賀県、長崎県、 熊本県、大分県、宮崎県、 鹿児島県、沖縄県	49 人	新開発食品 （上野川修一専門委員）	坂本元子委員

< 食品安全モニターからの主な意見等 >

意見交換の際に、モニターから指摘のあった主な意見等を整理すると、以下のとおり。

1) 食品安全一般に関する意見等（第二部個別テーマ関連以外のもの）

< 食品安全委員会活動全般関係（リスク評価、リスクコミュニケーション等） >

- ・「リスク分析の枠組み」について説明をされたが、リスク管理機関が評価機関によるリスク評価を待たずに管理措置を取ることはあるのか。評価を待たずに、リスク管理機関の責任において管理措置が取られるようなことがあれば、リスク分析の枠組み自体に疑念を持ってしまう。
- ・ほとんどの人が食品安全に関する情報をメディアから得ていると思う。マスコミの取り上げ方は大変重要であると思うが、食品安全委員会では誰が責任を持ち、メディアへ情報提供を行っているのか。
- ・リスク評価とリスク管理は明確に分離して実行すべきということだが、管理側の対応を評価機関が評価することはあるのか。
- ・これまでに数回意見交換会に参加したが、非常に勉強になった。食品安全モニターとして参加しやすい条件を作ってもらいたい。
- ・食品安全に関して情報発信が受身になっているのではないかと感じる。末端の消費者まで情報が伝わっていないと感じる。興味のある人は、自ら食品安全委員会のホームページにアクセスして情報を得ることが出来るが、もっと一般消費者や流通業者に対し情報発信すべきだ。
- ・食品のリスク評価とリスク管理を消費者は一緒のものと考えてしまっている。BSEに関する報道でも、輸入再開を決定したのは食品安全委員会であると認識されてしまっている状況であると思う。きちんと広報することが非常に大事。
- ・BSE問題などは、消費者への説明不足が最も問題。マスコミの先走り報道が、消費者の政府への不信を招いていると感じる。政府は消費者に対し判り易く説明していくことが肝要だ。
- ・遺伝子組換えの食品については、その内容が難しく、消費者は生理的になんとなく不安を感じており、単純に理解出来ないのではないかと感じる。情報を継続的に発信していくことが必要だ。
- ・食品安全委員会の評価件数について、分野ごとに差がある。化学物質・汚染物質は50件の要請中1件しか評価が終わっていない。どのような理由からか。
- ・BSEの意見交換会に参加した。個人的には、そこで出された意見が反映されていないのではないかと感じた不満が残っている。

< BSE 関係 >

- ・米国産牛肉が日本に入ってきた場合、きちんと検疫所で検査されるのか疑問。
- ・米国では米国産牛肉の安全性についてvCJDの罹患率は100万分の1だから安全であると言っているようだが、この点についての見解はいかがか。
- ・我が国では報道も含め、「BSE = 危険」との意識があまりにも強すぎるのではないかと感じる。
- ・米国産牛肉の輸入再々開について、個人的には国産牛だけあれば十分。一体、どのような団体等が輸入再々開を希望しているのであろうか。

- ・米国産牛肉が第三国を経由して日本国内に入ってくるようなことはないのか。また、米国から輸入される場合とそれ以外の国から輸入される場合とで、検査の違いはあるのか。
- ・米国産輸入牛肉に関し、消費者が自己責任において判断できるよう、牛肉を原料としているものは、加工品に至るまで全て原産地表示を要望する。外食産業においては「ガイドライン」が出されているようだが、罰則をも含め強く規制してもらいたい。また、米国産牛の25%がトレーサビリティ制度の下にあると聞いたが、日本に輸出する牛については、トレーサビリティ可能な牛のみを対象にすると安心だ。
- ・BSE問題に関し、食品安全委員会は孤軍奮闘で国民の食の安全を守ってくれていると感謝。科学者は政治に左右されることなく、あくまで科学者の立場で議論をして頂きたい。
- ・米国のハンバーガーのパテは危険部位等の混入がないよう、きちんと仕分けされたものになっているのか。査察を行った際には、ミンチ肉についても調査する必要があるのではないかと。BSEの問題は、食生活をどう捉えるのかの問題と考える。

<ポジティブリスト関係>

- ・食品安全委員会の評価に基づいて、リスク管理機関がきちんと管理を実施することが重要。ゼロリスクの食品はない。残留農薬のポジティブリスト制度に関しても、流通している食品は、リスク管理機関がきちんと管理・監督した商品であれば、消費者は安心だ。
- ・残留農薬のポジティブリスト制度施行に伴い、生産時に使用された農薬等の表示義務が食品に課されるのか。
- ・残留農薬のポジティブリスト制度の施行により、従来の農薬取締法の規制対象に比べ、農薬の規制対象が大幅に広がった。これは輸入品に対応するためか。また店頭ではどのように表示がなされるのか。
- ・残留農薬のポジティブリスト制度についての説明会に参加した。当該制度導入により、輸入業者は頭を抱えているようだ。輸入加工食品の検査に多大な労力必要なのではないかと。
- ・輸入食品をどれだけ取り締まることが出来るかが、残留農薬のポジティブリスト制度の大切な役割であるとする。事業者はどのような対策をとるべきか。当該制度は事業者に対し、負担を強いることになるのではないかと。
- ・残留農薬のポジティブリスト制度の一律基準0.01ppmは、かなり厳しい基準だと思う。5年間で全農薬が評価され、0.01ppmでなくなることに期待している。
- ・残留農薬のポジティブリスト制度を導入したことを、諸外国へはどのようにアピールしているのか。また、諸外国の農薬の使用法は安全なものなのか。
- ・残留農薬のポジティブリスト制度で、暫定基準を決めた後に科学的評価を行うのは、順序が逆だと思う。

<その他>

- ・近年、複合汚染について危惧を抱く人が多いと感じる。以前、ADIの設定については複合汚染も考慮していると聞いた。しかしながら添加物に対して不安を煽るような出版物も目にする。複合汚染については、どのように考えたらよいか。

- ・日本人は、押しなべてモノに手を加えることをよしとしない発想をしがちで、抵抗を感じる。安全な食品の摂取については、ある程度自己責任であり、全てを国に求めることは無理である。いかに情報を自分自身で理解、分析して判断するかが重要。
- ・「有機国産大豆１００％の豆腐」などというが、農薬を全く使用せずに栽培することなど不可能である。「有機」の定義を明確にして欲しい。
- ・食品安全モニター会議を休日や夜間に開催できないか。平日開催であると、通常勤務している人間は参加が困難だ。
- ・ＡＤＩに係る安全係数１／１００の根拠は何か。安全係数は化学物質によって異なるのではないか。またＡＤＩは化学物質単体では定められると思うが、複合毒性について、どのように考えればよいのか。
- ・食品安全モニターとして、科学的根拠に基づく情報は今後も周囲に発信していきたい。
- ・プリオン専門調査会専門委員辞任の件で、後日、元委員がテレビ等で発言している内容を見ると、プリオン専門調査会自体にまとまりがなかったのではと思えてしまう。問題が出たら隠さずに、議論をすることが重要ではないか。
- ・４月にプリオン専門調査会専門委員の半数が辞任したとの報道があった。公正中立なはずの食品安全委員会がどうしたのか。理解に苦しむ。

2) 個別テーマに関する意見等

< 食品添加物関係 >

- ・添加物のA D Iに関しては、科学の進歩や食生活の変化に伴い、定期的に見直しがなされているのか。
- ・国内の基準値を上回る添加物を使用していて摘発されるという事態がある一方で、検査にひっかからない業者もある。サンプリング検査ではコンテナの入り口付近しかサンプリングできない。検査方法を検討すべきだ。
- ・食品添加物の複合毒性について、今まで健康被害の報告がないから安心というのは、説得力に欠ける。消費者に対し、何か調査の足がかりを示してもらいたい。

< 農薬関係 >

- ・生産現場としては、農薬のドリフト対策として散布の際のノズルの交換等生産コストはかかっているが、価格転嫁はできない。記録は当然すべきであり、野菜等の価格は上げない。国内の農産物は、農薬取締法並びに食品安全基本法で守られているので安全だ。
- ・ポストハーベストについて、例えばグレープフルーツ防かび剤は、日本では食品添加物として規制していると聞くと聞くと、ポストハーベスト中の農薬はどう考えたらよいか。
- ・農薬や添加物に関して、乳児への影響が心配だ。いわゆる「切れる」子が増えているとか、アレルギーが増えているのも、農薬や添加物が原因ではないのか。
- ・輸入柑橘類のポストハーベストの対応は十分なのか。去年買ったレモンを放置していても、しなびはするが腐敗しない。食品として非常に不安に思う。

< 動物用医薬品関係 >

- ・肉には多様な部位があるが、M R Lは部位や臓器毎に決められるのか。また、養殖されている魚類にもM R Lが設定されているのか。

< 汚染物質関係 >

- ・輸入養殖魚介類について、汚染物質や薬剤についての検査は、どのようにして行われているのか。
- ・メチル水銀のD V Dを知人に見せたところ、調理法でメチル水銀の量は変化するのかと質問されたが、そのようなことはあるのか

< 微生物・ウイルス関係 >

- ・ノロウイルスのリスクの遺伝子型と病気を起こすエビデンスに何か関係はあるのか。
- ・食中毒について、学術的な話をされても理解が難しいので、内容を絞って現実的なことを説明してもらいたい。

< かび毒・自然毒等関係 >

- ・輸入落花生のアフラトキシン汚染の規制値についての話があったが、現在、分析技術は更に進化し、行政の分析は遅れていると感じる。行政基準とユーザーが一致して動かないと混乱を引き起こすと考える。

< 遺伝子組換え食品等関係 >

- ・消費者は、商品の表示から情報を得ることも多い。「遺伝子組換えでない」の表示がなされることにより、「遺伝子組換え」に対してなんとなく不安を抱いているのではないか。
- ・「遺伝子組換え」と「品種改良」は同じなのか。害虫被害がない食品は、人間が摂取できない物質も存在しているのではと思うがいかがか。
- ・遺伝子組換え食品については、危険であると言う学者もいて自分も同感だ。「遺伝子組換え原料を使用していない」と表示する商品がある中で、リスクの判断に迷いがある。
- ・海外で栽培されている作物のうち、遺伝子組換えでない作物の種子は、どのように管理されているのか。遺伝子組換え作物と非組換え作物の栽培が隣接している場合、自然交配の影響はないのか。

< 新開発食品等関係 >

- ・大豆イソフラボンのリスク評価を行い、上乗せ摂取量の上限値を決めたとのことだが、その評価結果が出された後、商品の表示が訂正されていないものも出回っている。回収することはないのか。
- ・「ピロリ菌を減らす」とか「血圧を低下させるお茶」とか、一時的にブームになるが、すぐにすたれる。特定保健用食品は継続することで効果があると思う。また、特定保健用食品をとっていれば、ほかの食品はどうでもよいというような風潮になっている気がする。

アンケート調査結果

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	合計
開催地	東京	東京	東京	札幌	仙台	名古屋	大阪	大阪	岡山	福岡	-
開催日	H18.5.26	H18.5.30	H18.5.31	H18.6.13	H18.6.14	H18.6.20	H18.6.21	H18.6.21	H18.6.27	H18.6.28	-
対象地域	東京都、山梨県、長野県	千葉県、神奈川県、新潟県	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県	北海道	東北6県	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県	大阪府、兵庫県（富山県、福井県、滋賀県、京都府、奈良県、和歌山県、奈良県、和歌山県）	富山県、石川県、滋賀県、京都府、奈良県、和歌山県（大阪府、兵庫県）	中国5県、四国4県	九州8県	-
参加者数（人）	35	43	39	17	39	39	36	27	47	49	371
回収数（人）	34	42	39	17	39	38	36	26	46	48	365
回収率	97.1%	97.7%	100.0%	100.0%	100.0%	97.4%	100.0%	96.3%	97.9%	98.0%	98.4%

問1 参加者の構成

	東京1	東京2	東京3	札幌	仙台	名古屋	大阪1	大阪2	岡山	福岡	全体
食品関係業務経験者	44.1%	33.3%	48.7%	29.4%	30.8%	39.6%	32.6%	31.6%	33.3%	26.9%	35.6%
食品関係研究職経験者	2.9%	4.8%	5.1%	17.6%	7.7%	0.0%	13.0%	10.5%	13.9%	3.8%	7.4%
医療・教育職経験者	5.9%	16.7%	5.1%	23.5%	12.8%	8.3%	19.6%	10.5%	13.9%	34.6%	14.0%
その他消費者一般	29.4%	40.5%	38.5%	29.4%	46.2%	47.9%	28.3%	42.1%	38.9%	26.9%	37.8%
無回答	17.6%	4.8%	2.6%	0.0%	2.6%	4.2%	6.5%	5.3%	0.0%	7.7%	5.2%

問2 モニター継続区分

	東京1	東京2	東京3	札幌	仙台	名古屋	大阪1	大阪2	岡山	福岡	全体
継続モニター	26.5%	14.3%	33.3%	17.6%	28.2%	23.7%	30.6%	19.2%	30.4%	31.3%	26.3%
新規モニター	70.6%	85.7%	66.7%	82.4%	71.8%	76.3%	69.4%	73.1%	67.4%	64.6%	72.1%
無回答	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	2.2%	4.2%	1.6%

問3 満足度合

	東京1	東京2	東京3	札幌	仙台	名古屋	大阪1	大阪2	岡山	福岡	全体
満足	17.6%	23.8%	17.9%	23.5%	25.6%	22.9%	10.9%	10.5%	22.2%	11.5%	18.6%
だいたい満足	61.8%	61.9%	53.8%	52.9%	64.1%	54.2%	58.7%	68.4%	61.1%	50.0%	59.2%
どちらでもない	8.8%	9.5%	20.5%	17.6%	5.1%	12.5%	10.9%	13.2%	8.3%	15.4%	11.8%
やや不満	5.9%	0.0%	2.6%	5.9%	2.6%	2.1%	4.3%	2.6%	2.8%	7.7%	3.3%
不満	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	2.6%	0.0%	3.8%	1.1%
無回答	5.9%	4.8%	2.6%	0.0%	2.6%	8.3%	13.0%	2.6%	5.6%	11.5%	6.0%

第一部の委員による講演について

問4 - 1 理解度合

	東京1	東京2	東京3	札幌	仙台	名古屋	大阪1	大阪2	岡山	福岡	全体
理解できた	29.4%	40.5%	43.6%	17.6%	38.5%	37.5%	26.1%	36.8%	44.4%	42.3%	36.4%
だいたい理解できた	67.6%	57.1%	48.7%	64.7%	53.8%	54.2%	54.3%	60.5%	55.6%	57.7%	56.7%
あまり理解できなかった	0.0%	0.0%	7.7%	17.6%	5.1%	4.2%	13.0%	2.6%	0.0%	0.0%	4.7%
理解できなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
無回答	2.9%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%	6.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%

問4 - 2 参考度合

	東京1	東京2	東京3	札幌	仙台	名古屋	大阪1	大阪2	岡山	福岡	全体
非常に参考になった	41.2%	42.9%	33.3%	35.3%	33.3%	39.6%	23.9%	34.2%	50.0%	42.3%	37.3%
ある程度参考になった	50.0%	52.4%	61.5%	58.8%	61.5%	54.2%	60.9%	55.3%	50.0%	53.8%	55.9%
あまり参考にならなかった	5.9%	2.4%	5.1%	0.0%	5.1%	2.1%	6.5%	7.9%	0.0%	3.8%	4.1%
全く参考にならなかった	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	2.2%	2.6%	0.0%	0.0%	0.8%
無回答	2.9%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%	6.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%

問5 - 1 内容がわかりにくかった点（問4 - 1で「あまり理解できなかった」、「理解できなかった」と回答した方のみ）

（人）

	東京1	東京2	東京3	札幌	仙台	名古屋	大阪1	大阪2	岡山	福岡	全体
説明に専門用語が多かった	0	0	1	2	2	1	2	0	0	0	8
資料がわかりにくかった	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2
聞き取りにくかった	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	3
適切な説明時間が確保されていなかった	0	0	0	2	0	2	3	1	0	0	8
その他	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	5
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

問5 - 2 参考にならなかった点（問3 - 2で「あまり参考にならなかった」、「全く参考にならなかった」と回答した方のみ）

（人）

	東京1	東京2	東京3	札幌	仙台	名古屋	大阪1	大阪2	岡山	福岡	全体
すでに知っている内容がほとんどだったから	1	0	1	0	1	0	3	2	0	0	8
内容が理解できなかったから	0	0	1	0	1	0	2	0	0	0	4
その他	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	4

第二部の専門委員による講演について

問 6 - 1 理解度合

	東京1	東京2	東京3	札幌	仙台	名古屋	大阪1	大阪2	岡山	福岡	全体
個別テーマ	動物用医薬	ウイルス	添加物	農薬	遺伝子組換	汚染物質	農薬	かび毒・	ウイルス	新開発食品	ー
理解できた	17.6%	38.1%	30.8%	5.9%	73.5%	31.3%	41.3%	39.5%	22.2%	23.1%	31.8%
だいたい理解できた	73.5%	57.1%	64.1%	76.5%	5.9%	54.2%	50.0%	57.9%	63.9%	46.2%	57.8%
あまり理解できなかった	5.9%	2.4%	2.6%	17.6%	0.0%	4.2%	2.2%	2.6%	8.3%	30.8%	6.6%
理解できなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	2.9%	2.4%	2.6%	0.0%	0.0%	10.4%	6.5%	0.0%	5.6%	0.0%	3.8%

問 6 - 2 参考度合

	東京1	東京2	東京3	札幌	仙台	名古屋	大阪1	大阪2	岡山	福岡	全体
非常に参考になった	44.1%	45.2%	30.8%	17.6%	46.2%	37.5%	34.8%	31.6%	33.3%	7.7%	34.8%
ある程度参考になった	47.1%	50.0%	53.8%	76.5%	41.0%	45.8%	50.0%	65.8%	61.1%	69.2%	54.0%
あまり参考にならなかった	5.9%	2.4%	10.3%	5.9%	7.7%	6.3%	4.3%	0.0%	2.8%	23.1%	6.3%
全く参考にならなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	2.9%	2.4%	5.1%	0.0%	5.1%	10.4%	10.9%	2.6%	2.8%	0.0%	4.9%

問 7 - 1 内容がわかりにくかった点（問 6 - 1 で「あまり理解できなかった」、「理解できなかった」と回答した方のみ）（人）

	東京1	東京2	東京3	札幌	仙台	名古屋	大阪1	大阪2	岡山	福岡	全体
説明に専門用語が多かった	1	1	0	2	1	1	0	1	1	7	15
資料がわかりにくかった	1	0	1	1	1	1	0	1	1	1	8
聞き取りにくかった	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
適切な説明時間が確保されていなかった	0	0	0	1	0	2	0	0	1	1	5
その他	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

問 7 - 2 参考にならなかった点（問 6 - 2 で「あまり参考にならなかった」、「全く参考にならなかった」と回答した方のみ）（人）

	東京1	東京2	東京3	札幌	仙台	名古屋	大阪1	大阪2	岡山	福岡	全体
すでに知っている内容がほとんどだったから	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	4
内容が理解できなかったから	0	0	2	1	2	0	0	0	0	2	7
その他	0	1	2	1	0	2	2	0	0	5	13

問 8 意見交換に充てられた時間

	東京1	東京2	東京3	札幌	仙台	名古屋	大阪1	大阪2	岡山	福岡	全体
もっと短くてもよかった	2.9%	2.4%	2.6%	11.8%	2.6%	0.0%	2.2%	2.6%	2.8%	3.8%	2.7%
適当であった	70.6%	69.0%	79.5%	47.1%	71.8%	58.3%	58.7%	68.4%	77.8%	57.7%	66.8%
もっと時間が欲しかった	23.5%	21.4%	12.8%	35.3%	15.4%	29.2%	34.8%	18.4%	19.4%	26.9%	23.3%

問 9 会議全体についての感想や御意見など

会議の運営に関する感想や御意見

【会議全般】

全般的に、有意義であった、大変参考になったなどの感想が多かった。一方、日常生活に身近な事柄を取り上げてほしいとか、国民との橋渡し役を期待するならば、モニターが理解し他人に伝えられるよう、もう少しわかりやすく平易な言葉で説明してほしいという要望もあった。

進行に関しては、スムーズで良かった、会議運営は適切であったという反応がある一方、講演については内容を盛り込みすぎで時間が足りない、意見交換はできるだけ全員が発言できるように司会者が配慮してほしいという指摘もあった。

会議のあり方については、大変勉強になるので、こういう機会を積極的に作ってもらいたいという期待の声や、会議をより充実させるために、講演資料の事前配布や意見・質問を予め受けておく方が良いのではないか、という提案があった。

【意見交換と会議時間】

全体的には、活発な意見交換が行われ、充実していたという評価や、意見交換の中でいろいろな意見や考えを聞いていて、理解が深まったと感想が多かった。

一方、意見交換や質疑応答の時間配分を望む意見も少なくはなく、一部で会議本来の主旨と違う発言をするモニターや質問時間の長いモニターに対する批判もみられた。そのため、司会者に対しては、質問者の絞込みや発言時間の割り振りを考えてほしいという指摘があった。

そのほか、モニター同士の意見交換と交流ができる場を望む声もあった。

説明内容等に対する主な感想・御意見等（会議運営以外）

【東京 1】

- ・ 食品安全という非常に大きな課題を抱えて、委員会の取組と努力をされていることはよくわかりました。
- ・ モニターの役割、仕事内容についての説明がもっと具体的にあるのかと思っていた。委員会との関係についてもあいまいな感じ。位置づけがはっきりしない。
- ・ 大変勉強になりました。特に食品のリスク分析ですが、マスコミ等からの情報では、「多く摂取すると危険である」といった内容しか伝わっておらず、多量に食べてはいけないものだと思っておりましたが、今回の講演で危険性がないことがわかりました。参加させていただきましてありがとうございました。
- ・ 専門委員のお話がとても分かりやすかった。農林水産省、厚生労働省等、専門の担当者から明確な回答をいただけたことで、会議が分かりやすく、よかったと思います。
- ・ 講義された先生も真剣に質問に答えておられて普通のリスクコミュニケーションより面白かった。

【東京 2】

- ・ モニターが大きな役割を期待されていることはよく知りませんでした。委員、事務局の説明にもありましたが、地域住民との情報交換は大変必要なことと思いました。しかし、大変難しいようにも思います。
- ・ リスクコミュニケーションの場では、ぜひ国民の健康の保護につながる食の安全・安心について情報発信して下さい。
- ・ 質問に対し、関係省庁の対応、特に明確な説明がなく、あいまいな態度は理解できません。

- ・ 食品安全モニターに初めてなりましたので、よくわからない点が多くありましたが、会に出席して、生の声を聞き、質問もしてようやく理解できました。やはり顔を合わせ、話を聞き、声をあげることは大変良く、今後しっかりやろうという決意を新たにしました。

【東京 3】

- ・ DVD の配布など地域に戻って食品安全委員会のメッセンジャーとして説明できるツールの提供があると良いと思います。会議の資料などは一般向けではないので、メールマガジンなど新しい試みに期待しています。電子化された情報は配信しやすいので便利だと思います。
- ・ 初めての参加でしたので皆様のお話が伺えて参考になりました。他の意見交換会も距離・時間的問題が許せる限り参加してみたいと思いました。また、そのような会議の様子が、HP やメール等でわかるといいと思いました。
- ・ 関係行政機関は一般生活にどのように運用され、指導・監視し、国民に流通や小売を通して対応しているのか。食の安全・安心の確保につながっているのかを例示して説明してもらった方が良いと思います。

【札幌】

- ・ BSE にとても興味があり、また不安に思っていたので、今回の話を聞いて納得できました。
- ・ 専門家から直接お話を聞くことができ良かったです。今後も出席させていただきたいと思います。
- ・ 国の担当者の回答は少し無責任に感じました。
- ・ 食品安全委員会や関係省庁との連携が少し不足に思いました。
- ・ 成長期の子供を持つ親として、食品の安全を考えることはとても重要です。多くの一般消費者の考えをたくさん聞けたらと思います。

【仙台】

- ・ モニター活動がどの程度食品安全行政に役立つのか、その程度の重要性をもう少し説明があればと思いました。
- ・ 食品のリスク分析、遺伝子組換え食品等、とてもわかりやすく説明されていてよかったと思います。リスクコミュニケーションという点から考えると、このような知識が一般消費者にうまく伝われば、食品の安全について国民が理性的な判断をできるようになるのではないのでしょうか。わかりやすい情報をいかに人々に伝えるかについて、モニターという立場で考え、今後意見として報告していきたいと考えております。安心を安全についての正確な情報で支える具体策を導くことができればと思います。
- ・ ポジティブリスト制については理解できるが、この制度をいかに実体化していくのか見えてこない。現段階のレベル、今後どうしていくのか、プログラムが提起されるとよいと思う。
- ・ 生活上におけるリスクの捉え方について、非常に参考になりました。日常生活に密接な関係があるさまざまなリスク。それらを正しく理解できる指針を今日の会議からいただいたような気がします。
- ・ 消費者の目から見ると「遺伝子組換え食品＝危険不安がある食品」というイメージがありました。今日のお話でとても理解できました。直接消費者の目に触れる「遺伝子組換え食品は安全」という POP などを考えてほしいと思いました。
- ・ 専門分野又は生活の中でのことが入り混じり、消費者の目線での話もおりこまれたように思われ、わかりやすく行政も考えていることがわかりました。これからは行政と消費者の立場の橋渡しができればと思い、たくさんの観点から情報を取り入れたいと思いました。

- ・ 遺伝子組換え食品の安全性についてよく理解できた。委員、専門委員の質問に対する対応はわかりやすく大変良かったと思います。
- ・ 初年度から参加していますが、年々重ねるほどに理解度が増してきました。しかし、日々リスク評価も変化し、共に勉強していきたいと思います。
- ・ これからの食糧確保と安全性が両論のごとく進んでいくことを望みます。モニターの方々の意識の高さに驚き、勉強不足を痛感しました。

【名古屋】

- ・ もっと BSE の現状について知りたかったです。
- ・ 専門委員の話は難しい内容をわかりやすく説明していただきました。汚染物質はこれからもっと重要な案件になっていくと思います。大きな問題が発生した時は、わかりやすく誤解を招かないような分かりやすい説明をこれからもよろしくお願いします。
- ・ 第二部の金属汚染の講演は専門的で非常に興味深く面白かった。テレビの特番のようだった。
- ・ 普段の生活では聞くことができない専門家の方のお話を聞けてとても興味深いものがありました。食品の安全を科学的な知見でチェックして下さっていることもわかりました。今後いっそう食品はその種類も産地も技術も流通経路も多様化していきます。それに対応できるよう、より細かいチェックの網をかけていただき、より情報をオープンにしていいただき、国民の食の安全を守ってくださるようお願いいたします。
- ・ 知らないことが多いと痛感しました。これからは常に勉強して、知識を蓄えたいと思いました。

【大阪 1】

- ・ 食品安全委員会の組織と方向性は理解できたが、やはり行政的であり、末端消費者の安心・安全に対応する活動が不足していることを痛感した。もっとコミュニケーションを。
- ・ 食品安全委員会の役割や農薬の評価についてよく理解できました。また、他のモニターの方の意見、質問内容から、一人一人の意識の高さに啓発されました。
- ・ ポジティブリストの問題点について理解が深まった。
- ・ 専門委員の講演を聞いて安心して食品が購入できますし、今日はいろいろな勉強をさせていただいたことをうれしく思います。食品に関して国がいろいろと取り組んで頑張っていることが理解できた。
- ・ 講演は時間的制約のためか、結構早く急いだ形での説明だったように思いました。
- ・ 食品安全モニターの役目として、会議で学んだことを消費者として地域の食育（子供たちや保護者等）に生かすためには、もっと具体的な事例がほしい。
- ・ 初めて出席しましたが、ニュースや新聞ではわからない情報が得られ、また、いろんな意見を聞くことができ、今後の参考となりました。とても有意義な機会だと思います。
- ・ 初めて出席しましたが、非常に勉強になりました。内閣府、農水、厚労の方々が一つの場でお話をされるのを聞いたのは、よい機会でした。

【大阪 2】

- ・ 委員からの説明については理解が深まった。一方、専門委員については、私の理解では難しかった。例などをあげて少しわかりやすく話してほしかった。
- ・ 全体的には有意義であったが、もう少しモニターが身近に感じる事例、課題と将来展望など、モニター業務との関連性などを示してほしい。
- ・ どのリスクコミュニケーションに出席しても消費者はいつも不安であることを発信し、政府側は安全ばかりを話され、双方理解不足だと思う。もう少し会議の運営方法を検討してモニ

ターが消費者にきちんと情報発信できる手法を考えるべきであると思う。

- ・ 一般市民はマスメディアの報道を第一に信用し、混乱を招く危険性があると思います。マスメディアの報道内容に対するチェックも必要かと思った。

【岡山】

- ・ 委員会の目的としていることは理解できましたが、もっと他方面（行政や各省庁）に正しいことを働きかけられるだけの力をつけてほしいと思います。
- ・ 委員会からの詳細な説明があったが、BSE の問題は未確認部分があり、7 月の輸入再開には疑問がある。十分な調査と確認が必要と思われる。
- ・ 専門委員の講演はデータの分析がしっかりなされていたので、一見難解に感じる事象の因果関係がよくわかりました。日常生活で自分自身が気をつけるべきことを考えるためのよい参考となりました。
- ・ BSE の講演では消費者の不安解消という点からは、やや不十分であった。
- ・ 質問をする方に、もう少し簡潔にわかりやすく話していただけたらなあと思いました。
- ・ 食品の安全についてもっと深く勉強していこうと思う。
- ・ 新聞などでの報道のみではわからない専門的な部分がよく理解できた。今後も情報提供をよろしく願います。

【福岡】

- ・ 委員のお話はとてもわかりやすくよかったです。
- ・ 特定の名前の特定保健用食品がわかり、又摂取量まで教わり、今日は出席してよかった。消費者は具体例を出してもらえた方がわかりやすいと思いました。
- ・ HP、電子メールでの情報発信は、IT 手段を持たない人にまで平等に広まらないと思う。
- ・ モニターの役目と役割がわかりました。今後の活動の中で、知り得た情報を地域の人に正しく伝えたいと思う。地域の現状も委員会に報告できるようにしたいと思います。
- ・ 今回初めてモニターになり会議に出席でき本当に良かったと思います。いろんな考えを持った方々の意見を聞くこともでき、講演会も聞いたことは今後の私の活動に役立つと思います。今後ともいろんな会に出席したいと思います。ありがとうございました。
- ・ 皆さんの食品への関心の高さを痛感しました。
- ・ 初めての参加で、委員会のホームページを見ている範囲では、聞いたこともないような言葉が出ており、難しい内容で理解できるのかなと心配しておりましたが、大変わかりやすく参考になりました。
- ・ 毎週メールマガジンを読ませていただいておりますが、たくさんの情報をどんどん発信していただき、日常の食育に役立てたいです。また、何らかの形で食育をテーマに地域に発信したいという気持ちも本日改めて高まりました。
- ・ 若い人の食が乱れていることが大変問題になっていますが、家庭の食環境から食育を学ぶべきで、学校や政府に頼るばかりでなく、親がもっと子供のためにも積極的になるべきだと思います。